

全農提供ラジオ番組のご紹介

あぐりずむ
ニッポン **いただきます紀行**

<https://www.tfm.co.jp/itadakimasu/>

- 放送日：毎週木曜日 6:15～6:25 (広島FM)
- パーソナリティ：川瀬良子さん



農業部

<https://www.tfm.co.jp/lock/nohgyou/>

- 放送日：毎週木曜日 23:00～23:06 (広島FM)
- パーソナリティ：鶴見萌さん
大和明桜さん

全農 ZEN-NOH
COUNTDOWN JAPAN

<https://www.tfm.co.jp/cdj/>

- 放送日：毎週土曜日 13:00～13:55生放送 (広島FM)
- パーソナリティ：ジョージ・ウィリアムズさん
安田レイさん

～全国FM38局で放送中～



JA全農ひろしまホームページ



<https://www.zennoh.or.jp/hr/>

JA全農ひろしま 営農情報LINE



JAグループ広島 営農通信

2022年

秋号



▲世羅町の圃場で田植えをする参加者
(3-R田植え体験会にて)

◆米穀情報

- ①米の需給動向
- ②将来を見据えたJAグループ米穀事業の方向性

◆園芸情報

- ①花き販売情勢と広島県園芸振興協会の取り組み
- ②青果物の販売経過および情勢

◆TOPICS

- 畜産たい肥の普及拡大に向けた取り組み

◆営農支援情報

- ①(イベント告知)令和4年度JAグループ担い手アグリサミット開催
- ②全農 営農管理システム「Z-GIS」

◆肥料・農薬情報

- 稲刈り後の次年度収量・品質を見据えた対策について

◆農業機械情報

- ①共同購入トラクタ(中型)の購入生産者インタビュー
- ②見直そう! 農業機械作業の安全対策

米穀情報

① 米の需給動向

農林水産省は令和4年7月の食糧部会で主食用米等の需給実績(速報値)及び需給見通しを公表しました。これによると、令和3年/4年の需要実績は702万トン(速報値)で、令和4年6月末民間在庫は217万トンとなり昨年から1万トン減少しました。また、令和4年/5年の需要見通しは692万トン、令和5年6月末民間在庫は200万トンの見通しとなります。

【主食用米等の需給見通し(農林水産省の資料を基に作成)】

国の需給見通し(7/27食糧部会)			
令和2/3年	令和3年6月末民間在庫量	A	218
	令和3年産主食用米等生産量	B	701
	令和3/4年主食用米等供給量計	C=A+B	919
	令和3/4年主食用米等需要量	D	702
	令和4年6月末民間在庫量	E=C-D	217
令和3/4年	令和4年産主食用米等生産量	F	675
	令和4/5年主食用米等供給量計	G=E+F	892
	令和4/5年主食用米等需要量	H	692
	令和5年6月末民間在庫量	I=G-H	200

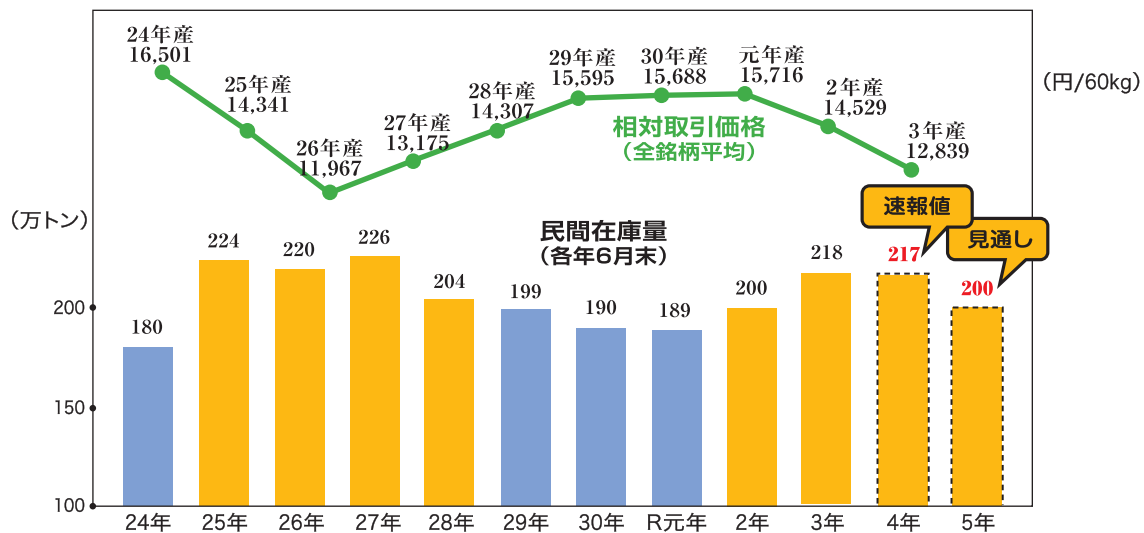
(注1) 令和4年産主食用米等生産量は、6月末時点の作付意向調査の結果(4.3万ha減)を基に試算すると平年作の場合673万トンとなる見込み。

(注2) 令和4/5年主食用米等需要量は、過去のデータを用いてトレンドで算出した令和4/5年の1人あたり消費量(推計値)に、令和4年の人口(推計値)を乗じて算出した値であり、新型コロナウイルス感染症の状況等によっては、変動する可能性がある。

(注3) ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

民間在庫量の増減と米価の変動には、高い相関関係があります。近年の在庫量増加等により令和3年産米の販売価格は下落傾向で推移しています。

【米の民間在庫と価格の関係(農林水産省の資料を基に全農で作成)】



また、令和4年産主食用米等の生産量は令和4年6月末時点で平年作の場合673万トンと見込まれており、全国的に飼料用米等への転換が進み当初の国の基本指針(令和4年産生産量675万トン)を達成する見通しとなっていますが、令和4年産の作柄や長期化するコロナ禍の影響を踏まえた需要動向等、不確定要素も多く、今後、需給状況が国の見通し以上に悪化することも懸念されています。

こうした先行き不透明な情勢にあって重要なことは“ひろしま米の契約販売先を維持確保すること”です。米の需給環境が不安定さを増すなか、需要に応じた生産の徹底と販売先を明確にした契約取引の拡大が重要になります。

② 将来を見据えたJAグループ米穀事業の方向性

さらに、近年では、長期化する全国的な米の需給緩和等により、市場における販売競争は激化しています。また、食生活の変化やコロナ禍の影響、SDGsの浸透等を背景に米の消費形態やニーズ・販売チャネルは急速に変化しています。

このようななか、米の生産・販売に係る将来予測も踏まえた需要に応じた生産や、需給環境に左右されにくいブランド力向上、契約栽培の拡大、みどりの食料システム戦略の対応をJAグループ広島一体となって推進する必要があります。

JAグループ広島では、消費者の信頼や実需者ニーズにこたえ、安全で安心な農産物を安定的に供給できる持続可能な農業を確立し、農業者の所得増大を支えています。

【今後の生産・集荷・販売イメージ】



■ JA全農ひろしまホームページ <https://www.zennoh.or.jp/hr/>

※トップページから、「米穀」とお進みください。

ひろしま米

検索

JA全農ひろしまは、今後も広島県内のお米や産地の魅力を発信していきます。

〈お問合せ先〉米穀総合課／塚本: TEL.082-431-5450

米穀販売課／山口: TEL.082-431-3000



① 花き販売情勢と広島県園芸振興協会の取り組み

■国内情勢

(一社)日本花き卸売市場協会の令和3年花き市場流通調査によると、年間取扱高の内訳は、切花類が2,438億円(前年比8.4%増)、鉢物類が937億円(同12.6%増)で、共に大きく伸びています。鉢物は「おうち消費」や「リモート消費」の影響などで需要が高まっています。

生産環境にあっては、肥料や資材の高騰はあるものの、急速な円安ドル高による輸入花きの減少により、国内花きが消費拡大することへの期待が高まっています。

■県内情勢と販売経過

一方、JA全農ひろしまの令和3年度花き卸売市場出荷については、出荷数量4,353,060(本・鉢:前年比91%)、販売金額221,747千円(同95%)、単価50円/本・鉢(同104%)となっており、令和4年6月末時点では、出荷数量345,058(本・鉢:前年比86%)、販売金額15,953千円(同72%)、単価46円/本・鉢(同82%)で推移しています。

上位3品目は小菊、輪菊、スプレー菊となっており、全国的にはボリュームのあるディスバットマム(洋ギク)へ生産移行が進んでいますが、本県においてはピンポン菊など極一部で生産されている状況です。

本年度の4月の花き(切花)は、前年度から引き続きトルコギキョウ(JA尾道市)、バラ、ランキンキュラス、ガーベラ、スイートピー、カーネーションスプレー(JA呉)、野菜苗・花壇苗ポット(JA広島市)が中心の販売となっており、4月29日からシャクヤク(JA庄原)、5月から小菊(JA庄原)の出荷が始まりました。

4月～6月の品目別単価は、ランキンキュラス(前年比57%)を除く洋花(スターチス、スイートピー)は前年比110%～218%で幸先が良いのと裏腹に、菊類の単価は5月までは全国的に品薄で単価が安定していたものの6月から下落し、その結果4月～6月菊類(小菊、スプレー含む)の単価は前年比67%～75%となり作付け品目により明暗が別れる状態となりました。また、花壇苗においては、前年に引き続き販売単価が低迷しております。

■広島県園芸振興協会の取り組み

広島県園芸振興協会では、広島県花き振興品目(4品目:キク、トルコギキョウ、リンドウ、花壇苗)と地域花き振興品目(5品目:宿根カスミソウ、スイートピー、バラ、スターチス、洋ラン)の生産振興を行うこととし、昨年度設置した花き部会ワーキング会議で管内の花き生産出荷の現状と課題を共有し、関係者のスキルアップを図りその解決に取り組んでいます。

その中で、本年度は、菊の省力機械化講習会やうね内部分施肥による花き実証展示ほ事業や、花き産地拡大支援事業を庄原市西城町で実施しています。

今後も引き続き、広島県産花きの生産振興に取り組んでいきます。



▲講習会の様子



▲うね内部施肥の様子

② 青果物の販売経過および情勢

◆青果物 令和4年6～8月の全国情勢と8月末販売状況

※金額は全て税抜

2022年(令和4年)6～8月は、夏の平均気温は全国的にかなり高くなりました。降水量に關しまして、九州から関東甲信地方の梅雨明けの確定値は、7月中旬を中心に上空の寒気や、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったため、7月下旬となりました。全国の野菜の状況は、だいこん、にんじん等は平年並みの生育状況。はくさい、キャベツ、レタスは、生育期の天候が順調に推移したため、生育良好。また、肥大が進み、大玉傾向です。ほうれんそう、ねぎ、果菜類(きゅうり、なす等)、土物類(馬鈴しょ、さといも、たまねぎ等)については平年並みの生育状況となっております。

JA全農ひろしまの青果物の取り扱い(令和4年8月末累計)のうち、卸売市場仕向けについては、出荷重量6,482t(前年比100%)、販売金額1,943百万円(同101%)、単価は299円/kg(同101%)で推移しています。

■全農ひろしまの市場販売状況(令和4年4～8月累計)

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	6,482	100%	1,943,211	101%	299	101%
トマト	1,889	106%	546,146	113%	289	106%
青ねぎ	727	91%	374,298	101%	1,684	118%
キャベツ	721	111%	47,106	117%	65	105%
きゅうり	534	110%	109,153	99%	204	89%
小松菜	512	94%	110,202	95%	215	101%
だいこん	509	95%	49,381	116%	97	123%
ほうれんそう	307	98%	154,629	101%	503	102%
アスパラガス	186	82%	214,157	79%	1,151	96%
なす	156	129%	34,865	122%	223	94%
馬鈴しょ	143	49%	20,356	53%	142	109%
ミニトマト	99	122%	61,626	132%	624	108%
その他葉茎菜類	92	105%	25,663	97%	280	94%
ジャンボピーマン	89	106%	20,622	99%	232	93%
青梗菜	85	106%	26,787	110%	313	103%
わけぎ	65	108%	37,719	94%	577	86%
豌豆	29	88%	29,141	83%	1,006	95%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

〈お問合せ先〉園芸課／^{ふじ}藤田:TEL.082-846-4708

◆ 8月単月の概況

【出荷量】

- 8月単月の出荷量は前年と比べ34t増加し、前年比102%となりました。多くの品目が前年と比べ増加しましたが、特になす25t増（前年比137%）、キャベツ24t増（同136%）、ミニトマト51t増（同142%）となりました。
- 一方で、だいこん16t減（同88%）、アスパラガス9t減（同84%）となり、前年の8月単月を下回る出荷量でした。
- 葉茎菜類では、ほうれんそうの出荷量は前年比103%、小松菜は同115%、果菜類では、トマトは同100%、ミニトマトは同142%となりました。トマト、ミニトマトは日中と夜温の気温差が激しく、青枯れ病等の発生で全国的には出荷量が減少しました。

【金額・単価】

- 8月単月の単価は320円/kgで前年比113%、8月単月の販売金額は出荷量・単価が前年を上回ったため、505百万円（前年比116%）となりました。出荷量が増加したなすの単価は前年比82%、キャベツの単価は同100%となりました。
- 一方で、出荷量が減少し、だいこんの単価は前年比147%、アスパラガスの単価は同104%となりました。だいこんについては、他県産の出荷が落ち着いてきたこともあり、広島県産については単価が上昇基調となりました。
- 葉茎菜類では、ほうれんそうの単価は前年比111%、小松菜は同91%、果菜類では、トマトは同125%、ミニトマトは同113%となりました。トマト、ミニトマトは全国的に出荷量が減少しているため、広島県産については単価が上昇基調となりました。

◆ 9月の見通し

（1）入荷量の見通し

9月の指定野菜（15品目）は、北海道、関東、中国、四国、九州産が出回ると見込まれます。入荷量は、前月を上回り、前年と同様、平年を下回ると見込まれます。

（2）卸売価格の見通し

このような入荷量のもとで、9月の指定野菜の卸売価格は、前月を上回り、前年を下回り、平年と同等と見込まれます。

○品目別の入荷量・卸売価格の見通し（9月）

品目	入 荷 量			卸 売 価 格			（参考）前年9月の主産地シェア（%）
	前月比較	前年比較	平年比較	前月比較	前年比較	平年比較	
だいこん	=	↘	↘	=	=	↗	北海道(78)、広島(11)
にんじん	↗	=	=	↘	↗	=	北海道(99)
はくさい	=	=	↘	↗	↘	↗	長野(91)
キャベツ	=	=	=	↗	↘	=	群馬(63)、長野(24)
ほうれんそう	↗	↘	↘	↗	=	=	広島(96)、長野(2)、島根(1)
青ねぎ	↘	=	↘	↗	=	↗	広島(53)、北海道(31)、大分(6)、福岡(3)、鳥取(2)
白ねぎ	↗	↘	↗	=	=	=	鳥取(51)、北海道(23)、大分(6)、広島(6)
レタス	↘	=	↘	↗	↘	↗	長野(89)
きゅうり	↗	=	↘	↗	=	=	佐賀(35)、宮崎(22)、熊本(17)
なす	↘	↗	↘	↗	↘	=	広島(27)、福岡(23)、佐賀(17)、徳島(14)、大分(8)、島根(5)
トマト(ミニトマトを除く)	↘	↗	↗	↗	↘	↘	広島(62)、島根(15)、熊本(10)
ピーマン	=	↗	↗	↗	↘	↘	大分(57)、広島(17)、鳥取(7)、宮崎(4)
ばれいしょ	↗	↗	=	=	↘	↗	北海道(99)
さといも	↗	↗	↗	↗	↘	↘	愛媛(54)、宮崎(43)
たまねぎ	↗	=	=	↘	↘	↗	北海道(99)
計	↗	=	↘	↗	↘	=	

注:「平年」とは、過去5か年の平均値である。
※この資料の内容は、令和4年8月25日現在で見込んだものであり、今後の気象条件の変化等により変動があり得る。
※主要野菜の入荷及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは令和4年8月25日中国四国農政局生産部園芸特産課の発表内容による。

（参考）広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

品 目	単位：トン													
	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	192	82%	215	96%	238	87%	184	60%	174	66%	221	83%	214	85%
にんじん	251	118%	250	110%	184	93%	134	84%	102	75%	128	79%	170	100%
はくさい	189	99%	139	71%	153	87%	120	77%	147	88%	170	111%	167	105%
キャベツ	496	90%	542	100%	505	96%	395	79%	424	82%	485	104%	500	109%
ほうれんそう	28	66%	39	87%	32	84%	24	81%	18	87%	16	85%	14	100%
青ねぎ	38	83%	39	86%	43	96%	40	94%	34	78%	41	96%	38	105%
白ねぎ	26	103%	27	102%	26	101%	29	124%	22	88%	30	109%	32	120%
レタス	219	91%	192	81%	221	99%	236	116%	181	85%	227	117%	216	108%
きゅうり	219	82%	210	90%	184	85%	130	85%	129	94%	154	94%	171	101%
なす	115	113%	113	103%	118	98%	98	80%	75	78%	81	87%	95	104%
トマト(ミニトマトを除く)	184	208%	150	167%	173	115%	129	90%	113	96%	123	97%	148	101%
ピーマン	87	134%	85	121%	80	130%	62	107%	54	92%	68	132%	54	103%
ばれいしょ	279	92%	228	87%	224	113%	91	85%	79	74%	87	77%	128	84%
たまねぎ	214	77%	190	67%	179	72%	174	73%	148	52%	166	66%	250	84%

資料:「広島市中央卸売市場日報」
注:平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

〈お問合せ先〉園芸課／^{ふじ た}藤田:TEL.082-846-4708

(参考)広島市中央卸売市場における品目別の卸売価格の推移

品 目	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬		8月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	107	139%	99	100%	84	99%	96	129%	132	155%	152	163%	141	147%	127	116%
にんじん	96	104%	115	115%	114	105%	169	132%	222	130%	231	120%	154	117%	144	123%
はくさい	74	94%	78	102%	79	98%	69	99%	67	90%	65	65%	59	49%	69	55%
キャベツ	101	115%	91	102%	70	80%	85	116%	86	126%	80	82%	76	73%	78	64%
ほうれんそう	487	104%	442	88%	490	93%	536	98%	573	76%	792	103%	803	99%	783	75%
青ねぎ	539	122%	560	120%	515	114%	527	115%	629	120%	599	99%	650	94%	715	98%
白ねぎ	442	100%	434	106%	391	102%	337	88%	378	86%	378	100%	368	105%	427	98%
レタス	183	117%	161	130%	136	118%	110	96%	115	80%	133	63%	142	73%	156	79%
きゅうり	194	93%	174	82%	160	78%	188	94%	260	75%	247	91%	223	87%	245	66%
なす	347	100%	324	94%	299	97%	257	95%	278	97%	308	96%	285	89%	294	92%
トマト(ミニトマトを除く)	280	113%	304	116%	267	93%	259	91%	261	96%	262	90%	284	110%	306	107%
ピーマン	364	103%	354	91%	306	77%	254	64%	317	84%	307	83%	347	91%	389	102%
ばれいしょ	138	81%	131	81%	125	77%	123	65%	116	58%	136	73%	177	109%	177	118%
たまねぎ	224	227%	210	226%	207	215%	198	184%	190	167%	173	153%	176	158%	142	138%

資料:「広島市中央卸売市場日報」

注:平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

月別の天候

全国 3か月予報(9月～11月)		
令和4年8月23日14時00分 気象庁発表		
9月～11月	気温	平均気温は、北日本で平年並または高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%です。
9月	天候	北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、北日本で平年並または高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%です。
10月	天候	北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、全国で高い確率50%です。
	降水量	降水量は、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で平年並または多い確率ともに40%です。
11月	天候	北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。西日本太平洋側では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

出典:気象庁ホームページ

〈お問合せ先〉園芸課／^{ふじ た}藤田:TEL.082-846-4708

TOPICS

トピックス

畜産たい肥の普及拡大に向けた取り組み

●広島大学と共同研究

4月19日(火)に三原市の全農チャレンジファーム広島・三原農場で、広島大学と水稻栽培における鶏ふんたい肥の有効活用に向けた共同研究を開始しました。

円安やロシアによるウクライナ侵攻の影響で化学肥料が高騰。また、広島県は採卵鶏の飼養羽数が全国5位で年間40万トンの鶏ふんたい肥が発生しますが、その利用率は30%程度にとどまっています。

そこで、地元の有効な資源を活用し肥料の安定確保につなげる。採卵鶏から産出される鶏ふんをたい肥として利用することで、養鶏農家のたい肥輸出額の低減や、鶏ふんたい肥を水稻農家の肥料として活用することで、肥料代の半減につながり、生産者所得の向上につなげていきます。また、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R(さんあーる)」として、販売面だけでなく、生産面の強化にも取り組みます。

鶏ふんたい肥の施用量をそれぞれ1aあたり0、20、40、60、80、100キロの6つに分けた試験区を設置し研究します。また、幼穂形成期、出穂期、収穫期で分けつや葉色、茎数、土壌中の肥料分、米の栄養価、食味等を調査します。

全農ひろしま営農資材部の豊田勝司部長は「畜産農家と水稻農家の一助となるような結果を出したい」と意気込み、広島大学の長岡俊徳准教授は「この研究で資源循環型農業が確立できれば、SDGsへの貢献にもつながるのでは」と期待しています。

今後、9月の収穫に向け調査を進め3年間研究を実施します。研究結果を基に水稻栽培に最適な施肥量を提案していき、循環型農業の確立を目指します。



▲鶏ふんたい肥を散布する様子



▲草丈を調査する様子

●耕畜連携・資源循環ブランド3-RのInstagram始動



Instagram(インスタグラム)3-Rのアカウントを開設しました! 3-R生産者の方の想いや3-Rの取り組みなどを消費者の方に向けて発信していきます。

生産者の皆さまには、生産にかける想いやオススメの食べ方など、色々とお聞きさせていただきたいと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願いします。

【アカウント名:@3r_san.aaru】

フォロー&いいね! お願いします!



〈お問合せ先〉改革推進課／^{かり や}狩谷:TEL.082-846-4701

営農支援情報

① (イベント告知) 令和4年度 JAグループ担い手アグリサミット開催

テーマ

食と農を未来へつなぐ

- 開催日時：10月26日(水)・27日(木) 両日とも9:30～15:00
- 開催場所：JA西日本営農技術センター(東広島市河内町入野11631-13)
- 実施内容：展示・体験・相談、セミナー・実演会

今年度で7回目の開催です。持続可能な農業と食を守り未来へつなぐため、最新の技術や情報等を発信する場としています。また、来場者の皆様の課題解決に向けて、実際に見て・触れて、相談できる場として、今年度はより体験や相談を充実させて開催します。ぜひご来場ください。

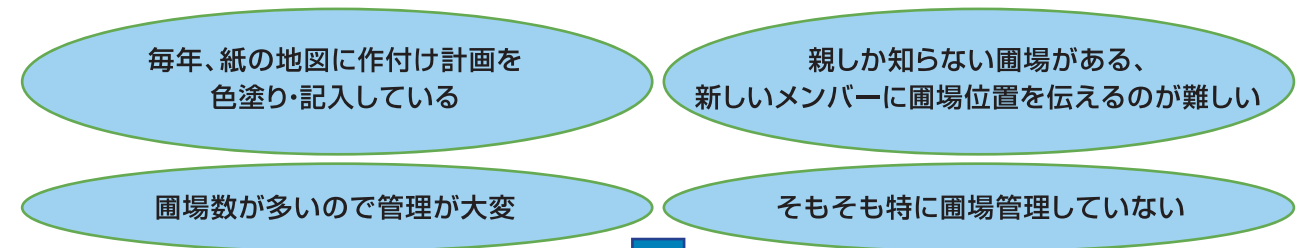
※参加・申込は、原則、JAを通じた事前申込制としています。また、コロナなどの対応により人数を制限させていただく場合があります。ご了承ください。

(昨年度の様子)



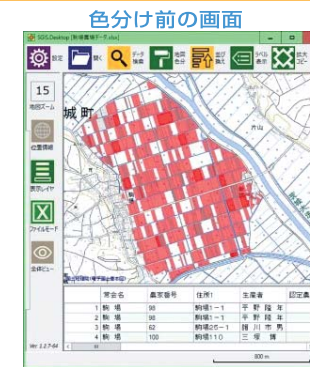
② 全農 営農管理システム「Z-GIS」

Z-GISとは、地図上の圃場の形にあわせて作成したポリゴン(圃場)と、エクセルで管理している圃場情報を紐づけして、管理する営農管理システムです。



エクセルの項目別に色分け可能!
例) 作付け品種で色分け

1項目の抽出も可能!
例) コシヒカリ圃場のみ抽出



地図上に管理項目を文字で表示可能!
例) 地図圃場上に面積・薬剤の箱数を表示

1kmメッシュ気象情報を確認可能!
例) 出穂から積算気温で刈取り時期を予測



料金が安い!
100圃場
税込2,640円/年間
1か月無料お試しも
あります!

既にエクセル管理
されている方は、
その情報を
地図と紐づけ可能
です!

以前のZ-GISより
圃場登録が
とても簡単に
なっています!

気になった方は、
下記営農支援課まで
ご連絡ください。

〈お問合せ先〉 営農支援課 / 神田 : TEL.082-846-4706

肥料・農薬情報

稲刈り後の次年度収量・品質を見据えた対策について

① 稲刈後の対策について

ここでは、秋の稲刈り後に行える次年度収量・品質を見据えた対策として、①**土づくり肥料の散布**、②**稲わら腐熟促進**、③**次年度のヒエ対策**の3点を中心にご紹介いたします。この記事を参考に、次年度の収量・品質向上のご検討をお願いいたします。

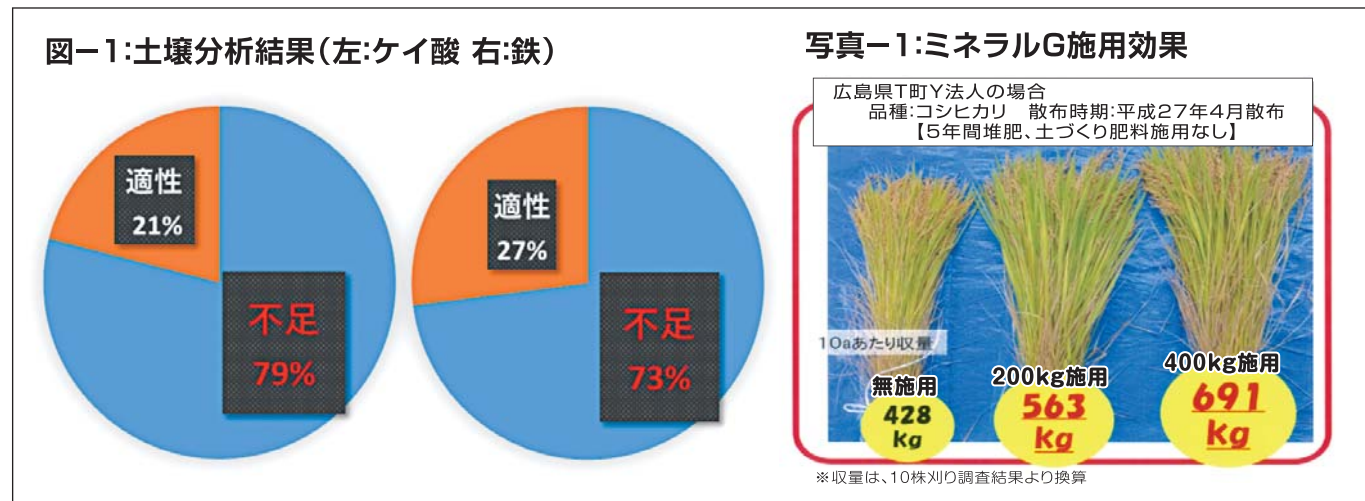
② 土づくり

稲刈りを終えた水田においては、稲刈り後に土づくりを行うことによって次年度の収量・品質向上につなげることができます。ではどのような点に着目して土づくりを行えばよいのでしょうか。

水稻栽培においては「ケイ酸」「鉄」の成分が非常に重要で、収量や品質に与える影響が大きい成分として知られています。特に「ケイ酸」は水稻が求める割合が高く、1作栽培すると100～120kg／10a程度吸収され、数年間補給しない状態が続くと収量への影響も現れます。

本会の土壌分析結果(年間約10,000点分析)で、数年間の傾向を見てみると、**ケイ酸が不足している圃場が多い**ことが確認されています。

収量と品質向上のため土づくり肥料施用の試験を県内多くのJAで実施しましたが、ほとんどの圃場で「収量が増えた」「米の質が良くなった」とコメントをいただきました。**収量を増やしたい方は、ミネラルG 200kg／10aあたりの散布をおすすめします。**大型規格としてフレコン(200kg／袋)規格もあります。



③ 稲わら腐熟促進

ケイ酸は土壌改良材を用いて補給する方法のほかに、刈り取り後の稲わらを活用して補うことも可能です。先述の通り稲は土壌中のケイ酸をよく吸収して成長するため、稲わら自身に多くのケイ酸が含まれています。

10a分の 稲わら	ケイ酸	40kg
	加里	8kg
	地力窒素	1.3kg
	⇒堆肥700kg相当	



稲わらの有効利用
⇒低コスト化に
直結!

この稲わらに含まれるケイ酸や養分を活用するためには、稲わらを十分に腐熟させる必要がありますが、**腐熟が十分でない稲わらは「ガスわき」をもたらし、次年度作において「赤枯れ」等が発生する要因となります。**そこで、ここでは稲わらの腐熟を促進する資材、「**アグリ革命**」についてご紹介します。

従来の腐熟促進対策資材は「微生物」を活用するものが多く、「施用(散布)時期」が限られる場合が多くありましたが、「**アグリ革命**」は酵素を主成分としているためで秋から春先まで使用することができます。稲わらの分解能力も高いことも確認されているため、**腐熟不足の稲わらがもたらす「ガスわき」を防ぐことができます。**

「**アグリ革命**」は細粒【2kg袋・10a分】と、アクア(液体)【100mlボトル・10a分／500mlボトル・50a分】があります。

■アグリ革命アクア(液体)は、10aあたり100mlを散布方法に応じて水で希釈し(10～500ℓ)、耕起前に散布します。

■**細粒・アクアともに無人航空機(ドローン)による処理が可能です!**

■より効果を高めるためには、稲刈後にできるだけ早く処理するのがおすすめです。(春散布も可能です)

■稲わらが濡れているときに処理しましょう。

■処理後は浅くすき込むのがおすすめです。



また、**アグリ革命**と**ミネラルG**を併用することによって、稲わらの腐熟をより促進することができます。

併用により期待される効果としては下記があげられます。

- ①「ミネラルG」施用によるケイ酸、鉄を中心とした無機養分を補給できます。
- ②「アグリ革命」散布による地力窒素を含んだ稲わらに含まれる養分を有効活用できます。
- ③稲わら分解促進によって硫化水素等のガス害を軽減し、根の活性化につながります。
- ④標高が高く、低温の地域においても稲わらを腐熟させることができます。

稲わらに残るケイ酸を上手に活用して、次年度の収量・品質向上を目指しましょう!

④ 次年度のヒエ対策

多くの方が悩まれる水田のヒエですが、実は稲刈後に対策を行うことで次年度の発生を抑制できることをご存知でしょうか。ここでは稲刈後に散布することで、ヒエの種子に付着して発芽後に枯殺する資材、「**プリグロックスL**」をご紹介します。

おすすめ品目	プリグロックスL	
10aあたり使用量	薬量:1L 希釈水量:100～150L	
特徴・使い方	・薬剤が直接ノビエの種子に付着するよう散布します。種子発芽後に個体を枯殺することで、来作のノビエを抑制することができます。 ・稲刈後から耕起前までに散布する必要があります。 ・ アグリ革命アクア と混用して散布することができます。	



この**プリグロックスL**と先ほどご紹介したアグリ革命のうち、液体タイプの「**アグリ革命アクア**」は**混用散布可能です**。混用散布を行うことによって何度も散布する手間が省け、作業を省力化することができます。

なお栽培品種やJAの指導によっては上記農薬が使用できない場合がありますので、不明な点は必ず事前にお近くのJAまでお問い合わせください。

〈お問合せ先〉肥料農薬課／谷保:TEL.082-846-4705

農業機械情報

① 共同購入トラクタ(中型)の購入生産者インタビュー

ご購入いただいた生産者の声をお届けします。

今回はJA広島北部を通じて購入された、城美勝彦さんをご紹介します。

【共同購入トラクタを知ったきっかけ、購入動機】

使用していたトラクタ(GL21)が故障し、JA担当者から共同購入トラクタを紹介され、価格が購入を検討していた28馬力のトラクタより安価だったため、共同購入トラクタの購入を決めた。

【購入の満足度】

他社の同馬力のトラクタと比較して、ボディが大きく安定感がある。また、小回りが利き使い易い。

【共同購入トラクタの主な使用目的、使用頻度】

水田経営(耕作面積3ha)と白ネギ(1a)を栽培。耕うん(ロータリー)、代掻き(ドライブハロー)、肥料散布(コンポキャスター)で使用している。

【今後希望する低コスト農機】

次期共同購入機はコンバインが予定されていると聞いたが、農業機械の価格低減の実現に向けて期待している。

【その他(ご意見・要望)】

JA農機担当者には良いトラクタを紹介してもらった。トラクタを使用して播種する「コーティング播種栽培」が確立すれば、苗代の削減等、経費の省力化が期待できる。



左:城見さん 右:JA広島北部農機センター 河重係長



共同購入トラクタに乗車し作業に入る前の様子

ご興味ある方は、最寄りのJA農機センター・株式会社全農アグリサポート広島までお問合せください。

● JAグループ共同購入トラクタとは ●

共同購入トラクタの取り組みは、生産資材コスト低減に向けたJAグループ自己改革の一環です。全国1万人以上の生産者の声を反映し、機能を選りすぐり、全国でまとめて注文することでメーカーの製造、流通を効率化し、製造コストを削減しています。

② 見直そう! 農業機械作業の安全対策

農作業を安全に行うために!

シーズン前に
セルフメンテナンスを
行いましょう!

ワンシーズン安心して
ご使用いただくため、
点検・整備が必要です



農業機械を安心してお使いいただくために、ぜひ点検を行ってください。

農業機械のことなら、
JA農機センターにお任せください。

JAグループ / 全農



〈お問合せ先〉農業機械課 / 平岡:TEL.0824-62-3103